

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

南河内地区唯一の夜間定時制高校の意義を踏まえ、地域に根差した教育活動を行い、将来地域を担う人材を育成し、地域と共に歩む学校をめざす。

- 1 働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を展開する。
- 2 生徒に基礎・基本の学力を定着させるとともに、自尊感情と自己有用感を高め、志と生活力のある社会人を育成する。
- 3 地域との連携を深め、地域から信頼され必要とされる人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の基礎学力を向上させる。

- ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT 機器活用を推進し授業内容・方法の改善を進める。
- イ 生徒の基礎学力の定着をめざした授業方法の開発・実践を行う。
- ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。

- ア 生徒の実態に合った基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の充実を図る。
- イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、高度な技能・技術など本物に触れる教育を実施する。

※生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」の肯定的回答(H30年度 65.2%)を、2021年度には70%以上に引き上げる。

2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ

(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

- ア 「農園実習」やボランティア活動を通して、豊かな人間性、自尊感情や自己有用感を育む。
- イ 「寄り添う教育」を基幹としながらも、校則の遵守や学習規律の向上など生徒の規範意識の醸成に取り組む。
- ウ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。

(2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

- ア 入学時から教育活動全体を通じて進路指導を行い、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。
- イ 実践的な職業教育を通じて社会人としての資質や能力を高めるとともに、進路につながる資格取得のための支援を充実させる。

※進学希望者の進学率100%を維持し、就職希望者の内定率(H30年度 69.7%)を、2021年度には学校斡旋就職希望者の内定率75%をめざす。

(3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。

- ア 中高連携・人間関係や居場所づくり・基礎学力養成講座など、中途退学・不登校を減少させるための取組みを行う。
- イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(面倒見のよさ など)(H30年度 72.6%)を、2021年度には肯定的回答を75%以上にする。

※教育相談体制をさらに充実させ、生徒向け学校教育自己診断における「担任以外に相談することができる先生がいる」(H30年度 58.9%)を、2021年度には65%に引き上げる。

3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 生徒たちの安心と安全のための取組みの充実を図る。

- ア 校内の教育相談体制を充実させ、生徒が気軽に相談できる雰囲気作りに努める。
- イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。
- ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育を、学校全体の教育活動全体を通じて取り組む。

(2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

- ア 長期欠席等の生徒の状況を家庭に連絡し、保護者への協力を得るなど家庭と連携した生徒の出席状況の改善を行う。
- イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深め生徒理解や生徒支援の充実を図る。
- ウ 近隣幼稚園等の園児、地域の方を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を深め、「クリーンキャンペーン」等の取組みを通じて、地域と共に歩む学校づくりを進める。
- エ 転編入生を受け入れ、卒業まで導くサポートを行い、地域の「学び」のセーフティネットとしての定時制の役割を果たす。
- オ 生徒が安心して学校生活を送れるための合理的な配慮を推進し、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(面倒見のよさ など)(H30年度 81.7%)を、2021年度には85%に引き上げる。

4 学校運営の活性化と教職員の資質向上

(1) 学校運営の活性化を図る。

- ア 准校長のリーダーシップのもとPDCAサイクルによる学校経営を推進する。
- イ 働き方改革を進めるため、分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、生徒の状況や配慮事項等の情報共有を行い、速やかに課題解決に臨む。
- ウ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。

(2) 教職員の資質向上を図る。

- ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を行う。
- イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。

※2021年度には校内研修、報告会を年間7回以上実施し、人材の育成や情報の共有などを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
生徒・保護者・教員について、昨年度との変化を見るために、同じ質問項目で実施した。提出率は、生徒…60.5%→74.5%、保護者…65.0%→42.4%、教員…100%→81.5%であった。保護者の回収率を上げるために、	<第1回 令和元年7月4日(木)> ・藤井寺工科の定時制は、ここ10年間程で大きく変化し、親しみが持てるようになってきた。地域とのつながりを深めるために実施されているイチゴ狩りや野菜の収穫等も、若い子ども

府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

<p>懇談や家庭訪問の機会等を利用する工夫する必要がある。</p> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒「わかりやすい授業が多い」(65.2%→78.9%)。保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」(62.3%→61.0%)。教員「教材の精選・工夫を行っている」(96.3%→100%)、「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」(88.9%→95.5%)であった。日々、授業内容を工夫改善しながら実践し、効果が徐々に表れてきている部分もあるが、十分ではなく、更なる授業改善が求められる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒「学校に行くのが楽しい」(61.6%→72.0%)、「先生は生徒達のことを、よく見て対応してくれる」(82.2%→79.0%)、「学校生活について、先生の指導には納得できる」(81.3%→76.4%)。保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」(88.7%→93.2%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている」(92.5%→91.6%)。教員「生徒指導において、家庭との連携ができています」(96.3%→90.9%)。若干ダウンした項目もあるが、引き続き個々の生徒に対して丁寧に指導し、更に保護者と連絡を密に取りながら理解と信頼を得たいと考えている。 生徒「人権の大切さについて学ぶ機会は多い」(67.8%→70.2%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」(74.1%→76.3%)。保護者「学校は生徒に生き方を考えさせ豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(88.7%→88.2%)、「学校は子どもに生命を大切に作る心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」(91.5%→93.3%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」(87.7%→93.2%)等、教科以外の教育活動の内容について、好結果が得られている。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員「准校長は日頃から、教育方針や学校運営方針を教職員に話している」(96.2%→77.3%)、「学校運営に、准校長がリーダーシップをはっきりしていますか」(88.9%→72.7%)等、学校運営について肯定的な回答が16項目中、9→6と減少している。また、「学校運営に、教職員の意見が反映されている」(74.1%→86.4%)、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」(88.9%→95.5%)等という結果も出ており、教職員との距離感を維持しながら、各項目について精査し、次年度の学校運営に生かしたい。 	<p>だけでなく高齢者をはじめ、みんなが楽しみにしている。また、クリーンキャンペーン等学校の取組みに感謝している。高齢化してきた地域住民も喜んでいて。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域新聞「御舟ニュース」に、記事提供をお願いしたい。(学校の取組みや部活動等) 「なごみカフェ」は、居場所のない生徒にとって必要なもので、引き続き継続して積極的に行って欲しい。生徒達と歳の近い学生ボランティアの存在もありがたい。 統廃合の実情は、全日制が4年連続定員割れで、非常に厳しい状況のようだが、南河内唯一の定時制高校なので、場所がなくならないように働きかけて欲しい。定時制高校が、これまで集団になじめない生徒の居場所になっているので、応援していきたい 学校運営協議会の場合、学校の状況、子どもが抱えている悩みなどを忌憚なく、意見交流できる場にしていきたい。 <p><第2回 令和元年12月20日(金)></p> <ul style="list-style-type: none"> SCもSSWも、生徒の立場に立って、温かく見守り、心の再生に力を入れ、一生懸命取り組んでくれている姿が伺われる。 藤工フェスティバルでは、生徒達を中心にPTAも交え活発に活動している。地域住民も毎年楽しみにしている。地域としてこれからも連携協力していきたいと思う。 授業アンケートの結果を受けて、引き続き授業の改善と工夫をしてください。 学校教育自己診断について、生徒及び保護者の提出率が低いように感じられるので、改善をお願いします。 <p><第3回 令和2年2月17日(月)></p> <ul style="list-style-type: none"> 危険物取扱者試験の特に乙種は難しい資格なのに、合格者が出ていることが素晴らしい。 研修等の実施回数について、達成されていない。目標達成をしてもらいたい。 中途退学者は少ないに越したことはない。資格等に興味を持ってもらい、目標や達成感を感じてもらうことは大切。資格に関して、もっと幅広く生徒を募ってもいいのではないかな。 少子化の影響もあり、府立学校の生徒数の確保が難しい。先日の私立学校の専願受験者数が30%を超えた。府立学校と私立学校では、面倒見が違うとの意見もある。地域に根差した南河内唯一の定時制高校である意義を、創意工夫を持ってより良くしてもらいたい。 以前の藤工定時制から考えると、学校運営が改善されてきている、よく頑張っておられる。 SSW、SCの活動報告から、生徒の良さを引き出していることが伺える。引き続き頑張ってもらいたい。 農園事業の後継者についてはどうなったか。(引き継げるように2名考えている。) PTA行事について、お金を徴収してでも参加者を増やすことで、もっと楽しいものになるのではないかな。 個々の生徒の活躍を、先生方が評価してあげることで、生徒たちの自信に繋がる。生徒たちのことをポジティブに捉え、自己有用感、自己肯定感を高めることに繋げてほしい。 アンケートの提出状況について、教員は全員が出すことが必要。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	
1 確かな学力の育成	(1) 生徒の基礎学力を向上させる (2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。	(1) ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT機器活用を推進し授業内容・方法の改善を進める。 イ 生徒の基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の一環として学び直しを目的とした、反復練習を主としたモジュール授業(理数、国、英)を1年生中心に継続・拡大する。 ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの推進。 (2) ア 特別非常勤講師や高度熟練技能者等の外部講師を積極的に活用し、生徒の興味・関心が深まる授業づくりや資格取得指導、進路講話など生徒のキャリア意識が高まる本物に触れる教育を実施する。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」を、68%以上に引き上げる。(H30年度65.2%) イ 年度最初の診断テスト結果より1月実施の診断テストでの正答率3%アップを達成する。(H30年度62.9%) ウ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、授業づくりの職員研修を実施する。(年1回) (2) ア 外部講師の実践による指導を活用し、300hの授業に関わってもらう。(H30年度372h)	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」は、78.9%と目標を達成できた。様々な課題を抱えた生徒が増えていく中で、興味を引かせ飽きさせないために内容に工夫を凝らし、ICT機器を使用する教員が増加した結果である。次年度はさらなる活用・向上をめざしたい。(◎) イ 年度最初の診断テスト結果より1月実施の診断テストでの正答率68.6%で5.7ポイントアップを達成できた。(◎)→繰り返し、丁寧に、粘り強く実施した。 ウ ユニバーサルマナー検定の講習会に、2級1名、3級2名が参加。職員室や学年会・教科会等にて受講者と情報交換しながら、弱者に寄り添う視点を取り入れた授業づくりについて行っている。(△)→検定料値上げの関係で時期が遅くなり、職員会議で報告をしたが、研修会は実施できなかった。 (2) ア 外部講師の実践による指導を332h授業に活用した。在籍生徒が減る中、次年度も現状を維持していきたい。(○)
2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ	(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。 (2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。 (3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。	(1) ア 「農園実習」やボランティア活動を通して、豊かな人間性、自尊感情や自己有用感を育む。 イ 校則遵守、学習規律など生徒の規範意識の向上を図るとともに、規範意識の醸成を育むための地域貢献として、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。 ウ 校種間連携を通じ、支援学校等との共同学習を実施する。 (2) ア 職場体験や学校見学など、生徒の進路実現の支援を充実させる。 イ 進路につながる資格取得の推進を通して、キャリア教育の充実を図る。 生徒の進路が実現できるように、資格取得のための支援を充実させる。 (3) ア 中高連携・人間関係・居場所づくり・基礎学力講座等を通じ、中途退学・不登校を減少さ	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度75%にする。(H30年度72.6%)、ボランティア参加者数50人以上を維持する。 イ H31年度も、「クリーンキャンペーン」を年間4回実施継続する。(H30年度4回) ウ H31年度も、年2回の支援学校との共同学習を継続実施。(H30年度2回) (2) ア H31年度は、進学希望者の進学率100%を維持し、就職希望者の内定率(H30年度69.7%)を75%	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度は、74.4%であった。教員の生徒一人一人に寄り添った教育活動を推進・継続したい。(△)。ボランティア参加者数は、40人であった。自己有用感を育成すべく、啓発していきたい。(△)→在籍数の減少と各クラスでの宣伝不足。 イ 令和元(H31)年度も、「クリーンキャンペーン」を年間5回実施した。地域からも感謝と期待を受けているので、次年度も継続する。(○) ウ 支援学校との共同学習は、年2回実施した。支援学校生への気配りができるようになり、頼られる存在としての自信が付いた。(○) (2) ア 本年度、進学希望者の進学率は、77.8%、就職希望者の内定率は、72.4%である。入学年度より年次進行でキャリア教育を実施し、生徒自ら進路選択し、実現できるようサポートする。(△) イ 本年度の資格取得数は、年間延べトータル数56

府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

		<p>せるための充実に重点をおき、家庭はもちろん生徒の雇用主とも連携を深め、授業への出席率を向上させることで中途退学の減少に取り組む。</p> <p>イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。</p>	<p>にする。</p> <p>イ H31 年度は、資格取得数を、年間延べトータル数 75 以上をめざす。(H30 年度 81)</p> <p>(3)</p> <p>ア 中途退学率を、前年度比 1% 減少させる。(H30 年度 5.4%)</p> <p>イ H31 年度も、SSW や SC も含めた、ケース会議やコア会議を 10 回以上実施する。</p>	<p>であった。それも、高校在学中に取得困難な上位段級を取得する生徒が出てきた。個々の能力に応じた指導を継続する。(△)→生徒数の減少及び検定料の値上げ。</p> <p>(3)</p> <p>ア 中途退学率は、4.2%(R02.03.13 現在)である。「なごみカフェ」や教育相談室等の居場所を確保し、教員がこまめに対応した成果である。また、学生ボランティアの役割も大きい。今後も校内での居場所を確保し対応していく。(○)</p> <p>(ただし連絡が取れないなどの理由で、数年前から籍だけ残っていた生徒の在籍を整理した結果は 9.03%になった。)</p> <p>イ 本年度、SSW や SC も含めた、ケース会議やコア会議を 27 回実施した。SC のカウンセリングや、SSW のアドバイスで不登校生が登校を再開できた。(◎)</p>
3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	<p>(1)生徒たちの安心と安全のための取組みの充実を図る。</p> <p>(2)家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 多様な生徒・保護者の相談や、相談需要数の増加をうけて、より一層、教育相談体制の充実を図りスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を図る。</p> <p>イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。</p> <p>ウ 薬物乱用防止教育の充実を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 保護者懇談会の充実や学年通信等を発行する等、家庭との連絡を頻繁に行い、家庭との連携を深める。</p> <p>イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、生徒理解や生徒支援のための中学校との連携を深めるとともに、本校の教育活動の広報を行う。</p> <p>ウ 近隣の幼稚園等の園児、地域の人々を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続し本校の教育活動への協力と理解を深める。</p> <p>エ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、合理的配慮を推進するための研修会を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる」を 62% に引き上げる。(H30 年度 58.9%)</p> <p>イ H31 年度も、交通安全教室を年間3回開催。(H30 年度は3回)</p> <p>ウ 薬物乱用防止教室を年間2回以上開催する。(H30 年度は1回)</p> <p>(2)</p> <p>ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度は、80.7%であった。(△)→連絡がつかない、また非常につきにくい保護者の増加による連携不足。家庭訪問・郵送等で改善したい。</p> <p>イ 生徒出身中学校 42 校を訪問した。8名の学校見学者があった。定時制のニーズを発掘し、伝達していく。(○)</p> <p>ウ 年間に 11 団体、418 名を農園に招待できた。近隣地域の方々や幼稚園児・支援学校生徒等との交流が図れ、本校の存在意義が浸透してきている。(○)</p> <p>エ 合理的配慮に関する研修会を2回おこなった。今後も SC 及び SSW 等の方から、様々な角度からの研修を実践していく。(○)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる」が 63.1%であった。居場所づくりや様々な行事を通じて、生徒と接する時間を確保し、カウンセリングマインドを持って生徒に接してきた結果であると考えられる。(◎)</p> <p>イ 本年度は、交通安全教室を年間3回開催した。スケアード・ストレートの映像を活用した講習会や警察官の講話も行った。次年度も継続する。(○)</p> <p>ウ 薬物乱用防止教室開催1回。(△)→早い時期から、一年間を見通して計画できていなかった。</p> <p>(2)</p> <p>ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度は、80.7%であった。(△)→連絡がつかない、また非常につきにくい保護者の増加による連携不足。家庭訪問・郵送等で改善したい。</p> <p>イ 生徒出身中学校 42 校を訪問した。8名の学校見学者があった。定時制のニーズを発掘し、伝達していく。(○)</p> <p>ウ 年間に 11 団体、418 名を農園に招待できた。近隣地域の方々や幼稚園児・支援学校生徒等との交流が図れ、本校の存在意義が浸透してきている。(○)</p> <p>エ 合理的配慮に関する研修会を2回おこなった。今後も SC 及び SSW 等の方から、様々な角度からの研修を実践していく。(○)</p>
4 学校運営の活性化と教職員の資質向上	<p>(1)学校運営の活性化を図る。</p> <p>(2)教職員の資質向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 分掌会議・系列会議・教科担当者会議・いじめ対策委員会等を効率良く定例開催し、生徒の状況や配慮事項等の情報を話し合い、情報共有化を図り、業務分担の軽減を進める。</p> <p>イ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 日常的な OJT の推進、校内研修の活性化を図る。</p> <p>イ ミドルリーダーの育成や、経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」(H30 年度 88.9%)を、90%に引き上げる。ストレスチェックの総合リスク(H30 年度 55)を、維持する。</p> <p>イ 教員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」(H30 年度 85.2%)を維持する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 各種校内研修を7回以上実施する。(H30 年度7回)</p> <p>イ 外部研修会への推薦、参加者による校内研修報告会5回を実施する。(H30 年度3回)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」は、86.4%であった。今後も各種委員会や打合せを実施し、生徒の情報等について教員間で共有していきたい。ストレスチェックの総合リスクについては、基準値を下回り66と概ね良好な状態にある。今後も、業務の平準化や風通しの良い職場状況を維持する。(△)→准校長・教頭・事務部長・首席が1年目で、教職員とのコミュニケーション不足が原因の一つであると思われる。</p> <p>イ 教員向け学校教育自己診断「教育全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は、77.3%であった。(△)→学校運営協議会で概ね賛同を受けた。また数値等指摘された部分について次年度に改善をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア 各種校内研修は、4回実施した。今後も現状に即した校内研修を企画・立案・実施していき教員の教育力を向上させる。(△)→年間計画の確認不足。</p> <p>イ 校内研修報告会に代えて、学年会・教科会・分掌会、職員室での情報共有等にて、受講者を中心に報告や情報交換を行った。積極的に研修に参加する教員が多く、外部研修会へ延べ 30 人を推薦した。次年度は、働き方改革を視野に入れ、外部研修で学んだ内容を、全教員で共有できるように、職員会議後を利用し、その都度研修報告会を短時間で簡潔に実施したい。(△)→生徒と触れ合う時間、教材研究・生徒指導等の時間確保のため、取り立てての報告会を実施しなかった。</p>